

## 第2回 まちづくりミーティング

日時：令和元年8月30日（金）11：00～12：00

場所：福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎

団体：学生企画チーム DOKKO

主な話し合いの内容

団体：～DOKKOの紹介～

- ・福知山公立大学まちかどキャンパス吹風舎を活動拠点として2018年5月に設立し、メンバー数は54名（2019年8月30日現在）になった。
- ・コンセプトは「地域と学生の架け橋を創る」「地域とともに挑戦、成長していく」
- ・地域プロジェクトとして、高齢者や子どもとの交流、まつりやワンダーマーケットへの参加など地域活動を行っている。

市長：いろいろな分野で地域活動をされていることがよく分かった。

イベント当日だけの手伝いに比べて、準備段階から一緒に入って地域の人と関わってやった方がやりがいを感じられると思うが、DOKKOの活動の中でその割合はどのくらいか？

団体：DOKKOに来る話は当日の手伝いの方が多いが、ボランティアサークルに回すこともあるので参加率はどちらも同じくらいだと思う。

市長：当日だけではなく準備から関わるのは大事なこと。市でも今年度から移住定住の分野でワークステイをやっていて、参加者が準備段階から地域に入ってもらうことで地域のことを知ってもらえることができる。

団体：今後の展開としてDOKKOの活動をもっと広めたいと思っている。

市長：「企画から一緒に作り上げました」というものなら広報ふくちやまでも取り上げやすい。改めてきちんとした形で、DOKKOはこれだけの人数集まっていて頑張れる体制になってきた、ということ踏まえてやったらいいと思う。

団体：地域の方は広報ふくちやまを本当によく見られているので、取り上げてもらえる嬉しい。

市長：広報ふくちやまは、就任してすぐに改善させた。今の広報ふくちやまはリニューアルした後の形で、当時は職員が目線で作ってしまっていて文字が小さく市のお知らせばかりだった。

特に表紙は、めくってもらえるかゴミ箱にいくか大きく左右する重要なところで、最初の2、3枚はお知らせを入れない、読み物にきなさいと言った。「伝える」ということはとても難しいことである。

また、去年から福知山の魅力発信にも着手していて、誰でも参加できる市民講座をやっている。そのような中で、ありがたいことに、福知山高等学校附属中学校の生徒さんが福知山はスイーツのまちということでクラウドファンディングを資金にスイーツ福袋を作るととても頑張られている。

**団体：福知山公立大生に期待することは？**

市長：学生が地域で活動することは大学自体の存在感を高めることにもなるし、学生の実践能力の向上にも繋がる。

福知山に残るか、地元に戻ってその力を発揮するか、いろいろあると思うが、今だからできること、やりたいことはどんどんやってほしい。若い人がいるだけではまちは元気になるとは限らない。どれだけ活動しているかが重要だと思う。

市長：一回生、二回生のみなさんは福知山に来てみてどう感じましたか？

**団体：私の地元と違う点として、福知山は店舗が集積しているので自転車だけでも行けるのは良いところだと思う。**

市長：福知山市全体で言うと約 500k m<sup>2</sup>あるので周辺部では課題も異なっていて、福知山市といってもいろいろな面がある。

**団体：去年のゼミで三和町に行きました。福知山市といってもいろいろなところがあって地域によって関わり方を考える必要があると感じた。**

市長：人口の分布を見ると、市街地に 50%、それ以外に 50%いる。つまり、一律の政策は難しく、どういう地域なのかを踏まえて考える必要がある。

**団体：福知山から大阪や京都に JR で行くが、料金が高いと感じる。**

市長：JR は京阪神の通勤圏と山陽新幹線の売り上げで動かしているところもある。地方だけだと赤字で、もし収益だけを考えてやっていくなれば地方は切っていくことになるだろう。けど維持してくれている。そういった背景があるので、JR へ京都や大阪まで複線化してください、と要望すると「もっと乗ってください」と言われる。

地方ではバスも電車も高いと言われるが、バスには民間のバス会社に補助金を出していて、赤字補填の上での運賃である。

**団体：一回生のときのグループワークでバスの本数のテーマがあったが、そういった背景を考えると今の状態になるのだと思う。**

市長：交通は変化の時代にきていて、例えば市街地以外において高齢者などの移動はどうするのか、そういったことを考えないといけない状況になっている。行政としても今の取り組みを踏まえて何をやっていくか考えているところである。

**団体：メンバーが 54 人いるが、組織が大きくなっていくとアクティブメンバーが 1 割 2 割になってしまうのが課題。リーダーから何か言うべきなのか、メンバーの底上げをしてもらう方が良いのか悩んでいる。メンバーみんなが活発に活動するためにはどうすればいいですか？**

市長：市と DOKKO では組織の規模と職員が仕事としている点で背景が異なるが、共通する部分として、若い人、つまりメンバーの意見を取り入れる、ということをやってみてはどうかと思う。活動してくれない人はなんでしないのか、また、プロジェクトをやってやりがいを感じているのかどうかも見極めないといけない。逆に、プロジェクトを渡してやりたいことをやってもらうという方法もある。こうしなさい、というやり方ではなく、自分たちで動かざるを得ない状況をつくってみるのはありかもしれない。

**団体：**いろいろなイベントに呼ばれて挨拶をされることが多いと思うが、挨拶する必要あるのかな？と思うものはないのか。

**市長：**個人的に思うのは、お祭り。お祭りはみんなが楽しんでいる中で、そこに行政が堅苦しい挨拶する必要あるのかと。一方で、お祭りによっては市長挨拶が設定されているものもあって、運営側の人たちが長年やられていて大事にされているところもあると思うのでその思いには応えたい。

でも、お祭りを支えている人や参加している人にとっては行政の堅苦しい挨拶の何が面白いの？と個人的には思っているところはある。

**団体：**与謝野町の学生団体にも入っていて活動の中で町長と話す機会があったが、堅物なイメージだったのが、話してみるとフラットで気さくなイメージに変わった。市長さんも同じような印象を受けたので、改めて僕も見習わないといけないと感じた。

**市長：**しっかり言うべき時と気さくにいく時を切り替えないといけない。コミュニケーション能力は大事で、地域の人とコミュニケーション取って、地域の人の声を正確に拾って理解が得られるように仕事をするべきだ、と言っている。そして、職員にはメモをちゃんととるように、とも言っている。また、これからは行政だけでなく民間とも手を取り合っていかなければならないので協力し合える関係づくりも重要である。

